JA自己改革ニュースnews

2023.7.20

自己改革実践サイクル編 No.13

全国のJAでは、「不断の自己改革」のPDCAサイクルとして、組合員との徹底した対話を通じた自己改革実践サイクルに取り組んでいます。PDCAとは、Plan（計画）➡Do（実行）➡Check（確認）➡Act（改善）の頭文字をとったもので、この一連の流れを繰り返して業務を継続的に改善する取り組みです。各地で進む自己改革実践サイクルの取り組みをご紹介します。

千葉県　JA安房（あわ）

暑熱対策した、野菜・花き集出荷場の有効活用による販売強化へ

P

JA安房（あわ）は、農業者の所得増大・農業生産の拡大のため、2022年度から「暑熱対策した、野菜・花き集出荷場の有効活用による販売強化」に取り組んでいます。これは農業振興計画で掲げた「生産性の向上と持続性を両立した生産基盤の強化」に基づく取り組みです。

神戸（かんべ）支店園芸振興拠点センター野菜・花き集出荷施設ではエアコンを増設して保冷保管することで、暑熱対策や農産物の鮮度保持が徹底され、出荷安定化と売上増を実現しました。

22年度の生産部会との対話や農家組合長会議、集落座談会などでは、組合員から安定出荷や計画以上に売上を実現したことへの評価、取り組みの継続強化などの意見が寄せられました。23年度はこうした声を踏まえ、売上目標を当初の7億円強から8億円に上方修正しました。

野菜・花きの売上高

22年度 目標	22年度 実績	23年度 当初目標	23年度 新目標
6億8,800万円	7億6,064万円	7億2,900万円	8億円

暑熱対策した集出荷施設では、レタスなどの野菜、ストックなどの花きの鮮度保持や出荷効率化を通じた販売強化を進めています。

D

暑熱対策を講じた集出荷施設のおかげで、春先から夏場の花の鮮度保持が可能になりました。ストックなどの花きで切り前を硬め（つぼみが硬く、花があまり開かない状態）にする2日前出荷を行い、出荷数量の情報を早く発信することで受注が増え、販売増加につなげています。

JAは市場と情報交換会を行い、予約注文の拡大や出荷計画の伝達、取引先からの産地見学の受け入れなどにより、さらなる受注の増加を図ることとしています。

C

生産部会との対話や農家組合長会議、地域別集落座談会などで、部会員や担い手とJA役職員の対話を通じて、自己改革の取り組みや進ちょく状況の説明、組合員の評価や意見の収集を行っています。23年度の農家組合長会議、集落座談会は1,000人の参加、生産部会との対話は260回以上の開催を目指しています。

A

組合員から得た意見や要望を取り組みに反映させ、次の改革につなげるため、必要に応じて、数値目標の見直しに取り組んでいます。

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

https://org.ja-group.jp/challenge/

発行／JA全中（一般社団法人 全国農業協同組合中央会）

国消国産 こくしょうこくさん

JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。